

(様式 1)

# 令和 6 年度 学力向上を図るための全体計画

|     |           |
|-----|-----------|
| 学校名 | 墨田区立業平小学校 |
| 校長名 | 伊藤 康次     |

## 1 本校の学力に関する状況

### (1) 墨田区学習状況調査結果から

| 成 果   | 課 題  |
|---|--|
| <p>● 概要</p> <p>○全学年・全教科 全国平均値を上回る。</p> <p>○比較的 low 水準の教科 (標準スコアから)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 4 年算数 (50.4)</li><li>・ 6 年理科 (50.7)</li><li>・ 6 年社会 (51.1)</li><li>・ 5 年理科 (51.2)</li></ul> <p>○比較的高水準の教科 (標準スコアから)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 6 年英語 (53.8)</li><li>・ 3 年国語 (53.0)</li><li>・ 6 年算数 (52.7)</li><li>・ 2 年国語 (52.6)</li><li>・ 5 年算数 (52.6)</li></ul> <p>※英語は本校の特色の一つでもある、とうきょうスカイツリーで実際に外国の人に話しかける体験学習が効果的と考えられる。</p> <p>※高学年の算数は高水準である。</p> | <p>● 概要</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 全国平均値を下回る学年・教科がなかった。しかし、その中でも<b>標準スコアから見て</b>、理科 (5 年と 6 年) 算数 (4 年) 社会 (6 年) が低い傾向を示す。</li><li>・ 英語を含めた 5 教科の中では、<b>正答率から見て</b>、社会と理科が低い傾向にある。(3~6 年)</li><li>・ 2 年生の国語は「情報の扱い方に関する事項」、「書くこと」、「主体的に取り組む態度」が課題である。</li><li>・ 4 年生の社会は「市の様子の移り変わり」が課題である。</li><li>・ 4 年生の算数は「図形」と「測定」が課題である。</li><li>・ 4 年生の理科は基礎・基本の中の「教科全体・活用」、「生命・地球」、「思考・判断・表現」が課題である。</li><li>・ 5 年生の国語は、「主体的に取り組む態度」が課題である。</li><li>・ 5 年生の社会は、基礎・活用の中の「基礎」「生活環境をさせる活動」「自然災害からくらしを守る活動」「伝統や文化、先人の働き」が課題である。</li><li>・ 5 年の理科は、基礎・活用の中の「活用」、「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」が課題である。</li><li>・ 6 年生の社会は、「農業や水産業」、「工業生産」、「産業と情報との関わり」、「知識・技能」が課題である。</li><li>・ 6 年生の理科では、基礎・活用の中の「基礎」、「生命・地球」、「知識・技能」が課題である。</li><li>・ どの学年も学力の二極化が見られる。</li></ul> |

● 同一集団の成長（教科別）

【国語】

- ・4年は横ばい傾向。
- ・5年生は2年生の時は高ポイントであったが、3年生から5年生は52ポイント前後で横ばい傾向。
- ・6年生は2年生から6年生まで52.5ポイント前後で横ばい。

【社会】

- ・5年生は4年生の時標準以下(49.7)であったが、今年は52.3ポイントと伸びを示した。
- ・6年生は5年生の時のみ高ポイントであった。

【算数】

- ・5年生は2年生から5年生まで横ばいで続いている。(53ポイント前後)
- ・6年生は全体的に、横ばいの傾向が続いている。(53ポイント前後)

【理科】

- ・5年生は4年生の時平均以下(49.7)であったが、今年は平均より上に上昇した。(51.2)
- ・6学年生は50.5前後で推移している。

【英語】

- ・平均値を上回って良好である。(53.8)

● 観点別傾向（教科別）

〔知識・理解 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む姿勢〕の3観点から

【国語】

「知識・技能」

全学年目標値を上回っている。3年6年が良好

「思考・判断・表現」

全学年目標値を上回っている。2年, 3年, 4年, 5年が良好

「主体的に学習に取り組む態度」

基本的な知識・技能が低い児童は、諦めてしまっている傾向がある。最後までテストに取り組むことができない。

● 同一集団の成長（教科別）

【国語】

- ・3年生は昨年度より低下した。(2.9ポイント低下し、53ポイント)
- ・国語は本校では標準スコアは良い方である。

【社会】

【算数】

- ・3年生は、標準スコアより上であるが、2年生の時よりは低下した。
- ・4学年は2年生、3年生の時より低下した。

【理科】

- ・理科は本校の中では、標準スコアは低位にある。(重点課題)

【英語】

- ・本校では標準スコアは良好である。

● 観点別傾向

【国語】

「知識・技能」

2年、4年、5年が平均と同程度。

「思考・判断・表現」

6年が平均と同程度。

「主体的に学習に取り組む態度」

2年が平均と同程度

|   |  |
|---|--|
| <p>全学年目標値を上回っている。3年、4年、5年、6年が良好</p> <p><b>【社会】</b></p> <p>「思考・判断・表現」<br/>全学年目標値を上回っている。4年、6年が良好</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」<br/>全学年目標値を上回っている。6年が良好</p> <p><b>【算数】</b></p> <p>「知識・技能」<br/>全学年目標値を上回っている。3年、5年、6年<br/>が良好</p> <p>「思考・判断・表現」<br/>全学年目標値を上回っている。3年、5年が良好</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」<br/>全学年目標値を上回っている。6年が良好</p> <p><b>【理科】</b></p> <p>「知識・技能」<br/>全学年目標値を上回っている。どの学年も<br/>平均と同程度である。</p> <p><b>【英語】</b></p> <p>「知識・技能」<br/>目標値を上回っている。</p> <p>「思考・判断・表現」<br/>目標値を上回っている。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」<br/>目標値を上回っている。</p> | <p><b>【社会】</b></p> <p>「知識・技能」<br/>6年生が目標値を下回っている。他の学年は同程<br/>度 <b>本校の重点課題</b></p> <p>「思考・判断・表現」<br/>5年度平均と同程度</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」<br/>4年、6年が平均と同程度</p> <p><b>【算数】</b></p> <p>「知識・技能」<br/>2年、4年が平均と同程度。</p> <p>「思考・判断・表現」<br/>2年、4年、6年が平均と同程度</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」<br/>2年、3年、4年、5年が平均と同程度</p> <p><b>【理科】</b></p> <p>「知識・技能」<br/>4年、5年、6年3学年とも平均と同程度</p> <p>「思考・判断・表現」<br/>4年、5年、6年3学年とも平均と同程度</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」<br/>4年、5年、6年3学年とも平均と同程度</p> <p><b>3観点共に本校の重点課題</b></p> <p><b>【英語】</b></p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」<br/>本校ではこの観点が一番弱い。</p> |
|---|--|

(2) 意識調査結果から

| 成 果  | 課 題  |
|--|--|
| <p><b>第2学年</b></p> <p>・「社会性」と「生活・学習習慣」は良好である。</p>  | <p><b>第2学年</b></p> <p>「社会性」では<u>家族のささえ</u> <u>友だちのささえ</u> <u>先生のささえ</u> <u>成功体験と自信</u> の項目が低位である。(48.2～49.1)</p> <p>「学級環境」では<u>学級の規範意識</u>、<u>学級の絆</u>、<u>いじめのサイン</u>、<u>対人ストレス</u>が低位である。(48.6～48.7)</p>              |
| <p><b>第3学年</b></p> <p>・アイチェックの項目は全般的に低位を示す。</p> <p>「自己認識」の中の<u>先生のささえ</u>と「学級環境」の中の<u>学級の規範意識</u>が良い</p>   | <p><b>第3学年</b></p> <p>「自己認識」では、<u>感動体験</u>と<u>他者からの評価</u>が低い。(共に48.9)</p> <p>「社会性」では<u>発信力</u>が低い。(49.6)</p> <p>「学級環境」では<u>学級の絆</u>が低い。(48.5)</p> <p>「生活・学習習慣」では<u>生活習慣</u> <u>学習習慣</u> <u>学習意欲</u>が低い。(49.7～49.8)</p> |
| <p><b>第4学年</b></p> <p>・「社会性」は全般的に良好である。</p>  | <p><b>第4学年</b></p> <p>「自己認識」では<u>友だちのささえ</u>と<u>先生の支え</u>が若干低い(48.4～49.0)</p> <p>「学級環境」では<u>学級の規範意識</u>と<u>学級の絆</u>、<u>いじめのサイン</u>の<u>数値</u>が低い。(44.4～48.6)</p>  |
| <p><b>第5学年</b></p> <p>・「自己認識」、「生活・学習習慣」は良好である。</p>   | <p><b>第5学年</b></p> <p>「社会性」では<u>思いやり</u>と<u>発信力</u>が若干低い(49.2～49.6)</p> <p>「学級環境」では<u>学級の絆</u>の<u>数値</u>が低い。(49.3)</p>   |
| <p><b>第6学年</b></p> <p>・全項目、全国平均値を上回って良好である。</p> <p>「自己認識」では<u>充実感</u>と<u>向上心</u>が53.6と高い数値を示す。</p> <p>「社会性」では<u>規範意識</u>が54.0と高い。</p> <p>「学級環境」では<u>いじめのサイン</u>の<u>数値</u>が高く、心配の無い状況である。</p> | <p><b>第6学年</b></p> <p>多くの項目で平均より2ポイント以上ある。現状を維持する。</p>   |

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

| 成 果   | 課 題   |
|---|---|
| <p>・自分の意見をはっきり伝える取組を校内研を通して続けてきた。この取組で、授業に真摯に向かう態度が身に付いてきたと感じられる。また、いろんな教育活動で成功体験を喜ぶ姿</p> | <p>・家庭との連携について</p> <p>家庭が安らぎの場になっていない子供が多いことに驚く。学校便りや保護者会を通じ、家庭での指導のあり方を再確認したい。</p> |

勢があるので、その点を上手に指導に生かしていききたい。

・本人の抱えている特性から、学習に対して意欲的に取り組めない児童が見られる。個に対する指導を検討していく。

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

### (1) 各教科の関心・意欲・態度と学習環境の向上

- ・学習内容の定着を図るために、復習する習慣を定着させる。授業における児童のつまずきを捉え、具体的な内容を提示するようにする。次時に向けて必要と思われる既習事項の定着をあらかじめ確認（レディネス・チェック）し、過去に遡って復習するよう促すことを取り入れる。
- ・机上だけの学習ではなく、実際に体験を通したり、その道のプロの話を開いたりすることで学習に関する好奇心を向上させる。また、体験がただの体験にすることなく、体験する必然性を児童に与える事前学習をしっかりとすることや体験が自分自身の知識や考え方構築につながるような事後学習をきちんと行う。
- ・スモールステップで目標を設定する。少しでも自分自身ができるようになったと思えるような肯定的な評価を続け、主体的に学習に取り組む意識を高めていく。
- ・他者受容感・自己評価・自己受容感を高めるために児童の小さな変化に気付き、声をかける。児童の気持ちに寄り添うと共に、つまずきに応じた指導を行う。

### (2) 付けたい資質・能力（コンピテンシー）を意識した授業を行う。

#### 【キーワード】

#### ① 汎用的スキル

問題解決力、批判的思考力、協働する力、伝える力、先を見通す力、感性・表現・創造の力、メタ認知力

#### ② 知識

主体的学び、対話的学び、深い学び

#### ③ 態度／価値

愛する心、他者に対する受容、共感・敬意、協力し合う心、よりよい社会への意識、好奇心・探究心、正しくあろうとする心、困難を乗り越える力、向上心

#### 【重点1】

子供の実態や教師・家庭・地域の期待などをはまえて、学校ごとに身に付けさせたいコンピテンシーを、より具体的なレベルで設定する。⇒今年度の校内研究におけるキーワードは、「対話」  
○必然性・必要性のある「対話」、○自然発生的な「対話」

#### 【重点2】

それを、各教科・領域さらには各単元の学習状況と組み合わせ、新たな行動目標を作成する。そ

の達成に向けて経験を積み重ねていくこと、より多くの場面を経験することで、コンピテンシーを育てる。

### (3) 個別最適な学びを念頭に、指導を行う。

「個別最適な学び」＝「指導の個別化」「学習の個性化」  
⇒教員の視点から……「個に応じた指導」

指導の個別化＝一定の目標を児童が達成することを目指し、個々の児童に応じて異なる方法等で学習を進めること。

学習の個性化＝個々の児童の興味・関心に応じて学習を進めること。  
課題や学習活動に取り組む機会を提供すること。

#### 【重点1】

- ・教員が支援の必要な児童に、より重点的な指導を行う。
- ・児童一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う。児童一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、児童自身の学習が最適となるよう調整させる場を設ける。

#### 【重点2】

- ・タブレット端末を有効的に活用する。「ミライシード」「ロイロノート」で児童の能力に応じた課題を提供する。
- ・ふりかえりシートを活用し、児童の能力に応じた内容の課題を提供する。また、東京ベーシックドリルを活用し、定期的に学力定着度を図る。

## 3 「令和7年度 墨田区学習状況調査」における目標

### (1) 目標

- ・全ての学年、項目で全国平均を2ポイント以上上回る。(重点教科 令和7年度 第5学年と第6学年の理科と社会)
- ・比較的力のある、国語 算数 英語で墨田区での上位を獲得する。